

2021世界レスリング選手権



女子フリースタイル 72kg 級

初優勝

ふるいち まさこ
古市 雅子 3等陸尉

©Koji FUSE

令和3年10月2日から10日の間、ノルウェー・オスロにおいて2021年世界レスリング選手権大会が行われた。2年ぶりの開催となった本大会は、五輪実施階級である18階級と非階級の12階級を合わせ30階級で試合が行われ、自衛隊体育学校からは古市雅子3等陸尉以下6名が日本代表として出場し、激闘を繰り広げた。

史上2人目の快挙
4世代での

世界女王

カデット・ジュニア・U23・シニア

大会6日目、女子フリースタイル72kg級に2019年世界選手権大会で銅メダルを獲得した古市3尉が出場した。2大会連続出場の古市3尉は、初戦をポイント6-0で勝利すると準々決勝では試合開始3分51秒、ポイント10-0のテクニカルフォール（規定のポイント差による勝利。フリースタイルでは10ポイント差以上で試合終了となる。）で勝利し、準決勝に駒を進めた。準決勝でも果敢に攻め抜きポイント6-2で相手を下し、前回大会を超える銀メダル以上を確定させた。迎えた決勝の相手は2020年アジア選手権優勝のジャミラ・バクベルゲノワ選手（カザフスタン）。序盤から攻め、ポイントを先制した古市3尉は

一步も譲らずリードを守りきり、ポイント3-0で世界一の栄光を手に入れた。古市3尉はカデット（16・17歳）、ジュニア（18～20歳）、U23（19～23歳）、そしてシニアと4世代での世界女王に輝き、奥野春菜2等陸曹に次いで世界史上2人目となる快挙を収め、その強さを見せつけた。

試合後、古市3尉は「優勝できてとても嬉しい。決勝の相手はカデットの頃から何度も対戦してきたので、お互いに知り尽くしていると思うが、勝ちたいという気持ちの強さで勝てたと思う。決勝ではいつも通り程よい緊張で相手の動きも見ることができ、周りの声も聞こえたので良い状態で戦えたと思う」と振り返り、「今後はパリ五輪に向けて一歩ずつ自分を成長させたい」と抱負を語った。



シニアでの初優勝を飾った古市3尉

吉田 5位 健闘

男子フリースタイル79kg級

男子フリースタイル79kg級に出場した吉田隆起2等陸曹は、シニアの世界選手権

初出場ながら5位入賞を果たす活躍を見せた。2回戦から出場した吉田2曹は初戦をポイント10-0のテクニカルフォールで勝利し、準々決勝ではポイント4-4の大接戦を競り勝ち準決勝へ。準決勝は階級を上げた元五輪王者に1-10で破れ、3位決定戦に挑むも試合開始2分25秒、ポイント0-11のテクニカルフォールで敗戦を喫し、5位となった。

吉田2曹は今大会を「振り返ってみれば楽しかったが、3位決定戦ではあんなにやり合えなかったのは初めてだったので悔いが残る。様々な選手へ対応できるように、レスリングの幅を広げていきたい。」と締めくくった。



初出場5位の健闘を見せた吉田2曹

出場選手結果

女子フリースタイル

72kg 級 優勝 3等陸尉 古市 雅子（熊本県）

男子フリースタイル

79kg 級 第5位 2等陸曹 吉田 隆起（和歌山県）

125kg 級 1回戦敗退 2等陸曹 山本 泰輝（静岡県）

男子グレコローマンスタイル

77kg 級 準々決勝敗退 2等陸曹 櫻庭 功大（秋田県）

82kg 級 2回戦敗退 陸士長 向井 識起（広島県）

87kg 級 1回戦敗退 3等陸曹 鶴田 峻大（長崎県）

